

終戦とともに始まった10歳の戦争

莊司幸子さんの引き揚げ体験

戦後79年を経て思うこと

満州での平和な日々

終戦の日。昭和20年8月15日から79年を数えます。当時、私は満州国・奉天（現在の中国・瀋陽市付近）の国民学校（現・小学校）の4年生、10歳でした。

家族は父と祖父母と子どもが3人、11歳の兄・7歳の弟と私です。母は私が5歳の時に亡くなっています。私達は母のいない寂しさも感じないほど祖母の愛を受けて育ちました。

父は南満州鉄道（満鉄）の社員で、4戸1の社宅に住んでいました。1戸建ちは重役級用、2戸1は課長級用、4戸1は平社員用であったようです。間取りの中心にペチカ（暖房と調理を兼ねた設備）があり、その周りに畳の間が3部屋ありました。

終戦後、新たな戦争の始まり

お風呂も冷蔵庫も無い暮らしでしたが、元氣一杯に戸外で遊び、真っ赤な太陽が西へ沈む頃、子ども達はみんな庭先で足を洗い、家に帰るのでした。

いつの頃からか、父を残して家族は長い列車にて敵軍の襲撃を避けて生活をしていました。

ある日、急に大人達の顔色が変わり、荷物をまとめる姿は、子ども達にもただならぬ様子を感じさせました。列車は北へ、どのくらい走ったのでしょうか、奉天駅に到着、私達は真っ暗な道を不安な気持ちで帰宅しました。

日本国は昭和20年8月15日をもって終戦。しかし、外地（満州など日本が国外で占領していた土地）では、この日から新たな戦争が始まったのです。

「日本は戦争に負けた！日本人は出て行け！」これまで日本人に虐げられていた満州の人々の復讐が始まり、昨日までの安全な社会は消滅し、無法社会と化していました。夜が明けるとあちらこちらに日本人が殺された痛ましい姿が見られるようになり、私達日本人は、息を潜めて暮らしていました。

満州の冬は早く、ペチカ用の石炭の調達もままならず、食糧も乏しい日々でした。そんなある日、カーテンの隙間から、ぼ

ろぼろの青い服を着たソ連兵が大勢列をなして通って行くのが見えました。

シベリアからの四人の部隊だったようで、その日から日本人の家に押し入り略奪を。腕時計を両方の腕に。モノだけでなく若い女性は連れ去られるので天井裏に息を潜めて隠れていました。

しばらくして街にソ連軍の部隊が入り、秩序もいくらか落ち着きました。そのような暮らしの中でも、父は満鉄の会社へ出勤していました。途中でソ連兵に「ダワイ！（早くしろ！）」と連れ去られて、使役といつてジャガイモの皮むき、水汲みなど雑用をさせられたそうです。

仕事が終わっても無事に帰宅できる保証はなく家族は心配な日々でした。

力の無い祖母や赤ちゃんたちの死

翌年の秋、体力の無い、弱い祖母が何の治療も受けられずに、日に日に弱っていききました。祖母の遺髪と爪を残し、亡骸は祖父と兄が布団で包み荷車に乗せて運んで行きました。今も中国の大地のどこかに眠っているかと思ひ出すと涙があふれます。

同じ頃、満州北部地方から飢えと寒さの中を歩き続けて多くの日本人家族が奉天にも辿り着きました。おんぶされた赤ちゃんはお母さんの背中から息絶えていました。境内に穴を掘り、何人もの赤ちゃんが、最後まで持つてきた晴れ着を着せられて、お人形のように並べられ、土をかけられました。

日本への引き揚げ

満鉄社員は「引揚組」と「中国残留組」に分けられ、残留組であった父は結核に罹患していることがわかり、急遽、引き揚

平和を考える夏

写真展・パネル展

◆藤原亮司 写真展「もう存在しないガザの日常」

8月12日までの午前9時～午後9時半、スワンホール2階のフリースペースで。パレスチナ・ガザ地区の現状とこれまで何が起ってきたかを伝える写真展。岡中央公民館Tel.784・8000。

◆平和パネル展 8月2～

げることになりました。9月下旬の寒い朝、ぎゅうぎゅう詰めの貨物列車に乗り、奉天を離れました。

列車は度々停車させられ、その都度、満州の人々の要求に処させられたと。ついには列車が動かなくなり、全員が歩くのみでした。

父は熱もありトラックに乗せられました。荷物は、兄と私が背負う麻袋のリュックサック、弟は母のお骨が入ったリュックサックでした。屋根があるだけのその夜の宿舎、リュックサックで自分達4人の場所を確保しました。

ようやく、乗船場「葫蘆島」中国の港町」に到着。米軍兵が銃を持つてはいるが、子ども心にも、これでもう殺される心配はないと感じました。頭からD.T.（シラミなど対策の殺虫剤）をかけられて大きな病院船に乗って日本へ向かいました。

ある日、甲板で大人達が「島影が見える」と。長崎県・佐世保市の収容所で1人に千円を頂き、祖父母と両親の故郷「福島」へ向かいました。

しかし、父は直ちに宮城県に国立結核療養所へ入院、20日後に亡くなりました。その後、私は伊丹の父の従兄

第20回平和の鐘 カリヨンコンサート（写真）

8月15日(木)午後6～7時、JR伊丹駅西側カリヨン塔前で。平和を願うカリヨン演奏や市立伊丹高生徒による平和都市宣言の朗読など。

当日直接、会場へ。岡市同和・人権・平和課Tel.784・8148。



では、私の人生の半分を、この教室と共に活動させていただき、感謝いたしております。

心の中に平和のとりでを

1972年、日中国交正常化により、満州から引き揚げることができず、親と生き別れ、死に別れて中国人の手で育てられた多くの孤児が親を探しに来日していることを新聞・テレビの報道で知り、大きなショックを受けました。

日本人でありながら、日本語が話せない、分からない人がいることを知りました。

当時の伊丹ユネスコ協会は、三宅梢会長の下「直ちに日常会話の支援を」とボランティアの日本語教室を開設しました。今

原爆死没者に黙とうを

79年前の8月6日午前8時15分広島市に、8月9日午前11時2分長崎市に、原爆が投下され、多くの尊い命が失われました。

原爆死没者のご冥福と核兵器のない世界を願い、各日時に1分間の黙とうをお願いします。

また、8月15日は終戦記念日です。全ての戦争犠牲者のご冥福と世界の恒久平和を願い、正午から1分間の黙とうをお願いします。

市同和・人権・平和課Tel.784-8148